

第2回・第5期第2回宝塚市協働のまちづくり促進委員会

協働のマニュアル検討部会 議事録

開催日時	令和4年（2022年）8月29日（月）18：30～19：45
開催場所	中央公民館 ホール
次 第	1 開会 2 議事 （1）協働のマニュアルの検証の進め方について 3 その他 4 閉会
出席委員	久会長、飯室委員、加藤委員、足立委員、中山委員、藤本委員、前菌委員、平原委員、上西委員、津國委員、川上委員、喜多河委員、番庄委員
開催形態	公開（傍聴人0名）

1 開会

事務局から、本日の出席者は13名であり、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者はないことを報告した。

2 議事

（1）協働のマニュアルの検証の進め方について

事務局より、配布資料に基づき説明を行った後、検証の進め方について意見交換を行った。内容は以下のとおり。

ア （会長）今日は2回目ということで、また自由に意見交換をして、どういう進め方をするのかというところをステップアップしていきたい。何かご質問やご意見はあるか。

イ （会長）もう1つの協働契約部会は、作業班を作ってコンパクトな人数で議論して、部会にかけて全体会議にかけるということになっているが、一方で協働のマニュアル検討部会は、進め方の体制も含めてどうするかということで議論をさせていただければと思う。協働契約のように作業班を作って、そこで揉んでいただいて部会・全体会という方がいいのか、また別の進め方にしようというご意見もあろうかと思うがいかがか。

ウ まち協で活動している者だが、協働のマニュアルの内容は非常に常識的と言うか、色々やっている活動は知らないうちにこのマニュアルに沿っているということもたくさんあって、ほぼこのままでも問題はないのではないかと思う。地域として今大きな問題は後継者・担い手のことがあって、この部会は地域の大きな共通の課題について後押しする動きをしてもいいのではという気がしている。いわゆる後継

者・担い手をどうやって見つけるのかということで、この会で検討を進めるというか、協働のマニュアルの実施例という方向のものができないかという気がしているがいかがか。

エ (会長) 協働のマニュアルを検討するにあたって、特に世代交代や若手の方々がどのように参画できているかというのを検証しながら、マニュアルに盛り込んでいくというご提案かと思うがいかがか。

オ (事務局) 担い手づくりや役員、地域活動の負担という話は、長年言われている普遍的な課題であると思っているが、最近特に担い手不足をどうすればいいのかという相談を耳にすることが増えている。協働を進めようにもそれを担う人がいないと成り立っていかないので、マニュアルの前提の話になってくるかもしれないが、テーマとして取り上げる価値は高いのかなと思う。

カ (会長) 今の話の延長上で言うと、地域活動団体だけではなくNPOやテーマ型の団体も、同じメンバーがどんどん高齢化してしまうという悩みは同じかなと思っている。どういう形で若い方々に参画いただくか、あるいはバトンタッチしていくかということだと思うが、学生でも市民活動とか社会活動に関心を持っていて、自分たちで団体を作って動いている人もたくさんいる。たぶん30代40代の方々も色々な形で地域とか社会で動いている。そこがうまく手を繋ぎ合えればいいのにと思っていて、担い手がないのではなくて、別の形で別のところで動いているのだと思う。そこがなぜ今分かれてしまっているのか、どうすれば一緒になれるのかを議論していくと色々見えてくるのではないか。

キ 協働のマニュアル部会の仕事は、協働のマニュアルを見直そうということ。協働のマニュアルは何を書いたかということ、ポイントは協働の指針5ページ目について、これをさらに細かく具体的にわかりやすくしましょうというのがこのマニュアル。実際の活動に当てはめたときに、どんな点に気を付ければいいのかを段階ごとに解説しているため、マニュアルのPDCAの流れがこの条件でいいのかというのが大きなポイント。協働のまちづくりの全体の担い手の問題や、個人やあるいは単独の活動団体が、既存の団体と関係なく動くまちづくりが始まっているという問題は、マニュアル部会のテーマではなく協働のまちづくり促進委員会全体会で論議すべきテーマではないか。担い手の問題というのは既存の団体の、例えばまち協とか自治会とかそういうところの組織の中の活動の問題であって、マニュアルとは直接関係ない。この部会で検討するテーマとは違うところで論議した方がいいのではないか。

ク 確かにこの部会の話とは若干それるかもしれないが、協働を進めるため・発展させるためという大きな目的のもとで、大きな課題があって、それを進めていくためにマニュアルの表現で解決しようというのはなかなか難しいのではないかと思う。問題を解決するときこのマニュアルがどう役立つか、ここが不十分かなとかそういう評価をやるためにも、まず解決しようという動きを始めたかどうかというのが思うところ。

- ケ (会長) 広くマニュアルというのを捉えていく、あるいは今のマニュアルの改訂版ではなくて、もう1つ別のマニュアルを作っていくという考え方をとれば、先ほどの話は取り入れられないことはない。そのあたりも含めて、せつかく部会に分かれているわけなので、部会としてどのような内容をどのように議論するのが効果的・効率的かというところで議論をしていきたい。いかがか。
- コ 宝塚NPOセンターでまちづくり協議会のデジタル化のお手伝いをしている。その中で、20のまちづくり協議会にとっても違いがあるように思える。もしかしたら、まちづくり協議会のマネジメント方法というか、何かがそこに表れているのかなと思って見ている。例えば何か物事を決めるときに、どうしても会長の合意が取られなければ決められないとか、それって権限移譲できていないとか、そういうことが担い手不足につながっているのかなというのを、私たちはセンターの中で話している。この前豊岡市に行ってきた、豊岡でのまちづくりに関わっている人たちのタウンミーティングに参加してきた。来月9月には、豊岡にある豊岡劇場という古い映画館の再生と、それから豊岡劇場を中心にして豊岡市のこれからを考えると、そういうワークショップをやる。そこに出てくるのが高校生だったり、豊岡劇場でずっと映画を昔見て、それが自分の中に色々あってパイロットになって、そしてまたふるさと豊岡に帰ってきて国際交流の活動をしているようなご年配の方だったり、幅広く入ってこられて、そういう人たちの意見を聞きながら、これからの豊岡をどうしようと考え。そのコンパクト版みたいな、まち協の中のタウンミーティングみたいなものがあると、出会いの場みたいなものが作れるのではないかなと思っている。1つのまち協に「タウンミーティングを一緒にやりませんか?」とお声がけをして、それはそこで色々事情があり頓挫してしまったが、またみんなでそういう場が作れたらいいな。その場が出会いの場になるのではないかなと思う。それをマニュアルとは別に、なにかノウハウみたいなものがまち協の中で共有できたらいいのではないかな。
- サ 今からまちづくりの中で出会いのセッティングをどうやってするか。それぞれバラバラに動いているのを誰かがハブみたいな役割をしないといけないだろうと思ったときに、誰がふさわしいかはわからないけれども、これからデジタル化を取り入れていかないと仕方がないのではないかなというのがある。マニュアルの話で先ほど言われたように、会議が終わって振り返ってみたら意外とこのようなやり方をできているよねと実感みたいなものを皆さんお持ちだと思ふ。まちづくり計画の見直しのガイドラインは(まちづくり計画を)策定するときにごく役に立った。こういう風にしたら進めやすいみたいな事例が意外とあっさり載せられていて丁寧。何度も何度も読ませてもらって、何が求められるのだろうというのが読んでみるとわかり、ごく役立った。マニュアル部会に入ったときに、マニュアルって何?と思っていたが、実際に読んでみると納得できるものばかり。久先生がまとめている10ページにある文章を読んだときに、その文章だけでこの本の中身が分かるのではないかなと思ったほど、要するに的確に細かい部分が載せられていた

ので、マニュアルというのはこれを見て参考にしたいという内容の方がいいのだろうというのが1つ。もう1つは、これから必要なのはやはりデジタル化で、バラバラになっているものをこんな風につなぐこともできるのではないか、みたいな提案もいいのではと思う。

シ (会長) 今出していただいている話を強引にまとめるとすれば、今もうすでに協働のマニュアルがあるわけだから、その内容をもう1度この時点で見返して修正をかけるのであれば修正をかけていくということでのバージョンアップというのもあり。一方でいろんな課題を乗り越えるために、このマニュアルを補強するという意味でもう1冊別のバージョンのマニュアルを作ったらどうかという意見の2つに整理できる。どちらかにするというのもあると思うが、両方・両輪で進めていくという部会の進め方もあろうかと思う。そのあたりはいかがか。

ス マニュアルから少し離れて、担い手という問題点を市民の方、まちづくり協議会の方が検討する場を考えたらどうかと思う。先ほどデジタルの話が出たが、やはり地域では担い手が課題で、特に役員、なぜ役員になり手がいないのかという疑問もあって、やはり各活動がバラバラで系統立ってまとめられていないから、やろうとしてもとても入れないという方もたくさんいて、あと事務的な作業が非常に煩雑という側面もあって、今回デジタル化ということで予算もかなりついて、それを活用して効率化しようということ。かなり効果がありそうだなというところまで来ているが、例えば実際にこうやったらいいというマニュアルというよりも、アイデアを交換できるような場をこの委員会で取り持つような動きができないだろうか。

セ (会長) それは全体会でやった方がいいのでは、というご提案もあったと思うが。

ソ 促進委員会の目的が、促進委員会規則に書かれている。その目的の中に、1つは市長の諮問に答申することとあり、もう1つは、委員会独自で協働のまちづくりについて重要な意見をまとめて答申すること。だからいろんな問題、まちづくりに関することでこれをやった方がいいというのは、促進委員会が独自にまとめてそれを市長宛に提案する・意見を言う。それをどう取り上げるかは話し合いながら市が決めていく。そういうやり方で促進委員会があって、促進委員会の中で協働のマニュアルを作った。このマニュアルの後ろの方に第1期の委員名簿があって、その中にマニュアル策定部会委員・策定部の作業部会委員というのがマークしてある。このマニュアルを作るときも促進委員会の中でマニュアルの策定部会を作ろうということで作って、作業部会を作ろうということでその中で作った。そして、このマニュアルの中に「3年ごとに見直す」と書いているから今やっている。この流れからすれば、マニュアル策定部会は作業部会で作ったのであれば作業部会でやるというのが一番すっきりいくことだと思うし、まちづくり協議会が、宝塚市の総合型のまちづくり協議会に会則上になっていないとか、担い手の問題がこれからはまち協に限らず大事なことだという他のテーマは、先ほど言った促進委員会の2つ目の目的「重要なことについてここで話し合って、結論を持って意見を公表していく・検討していく」という流れに任せるのが1番いいやり方ではないか。新たに部会を

作るかということであれば、この部会ではなくて全体会で新たな部会を作ろうとした方がいいということで、この場ではなくて促進委員会で論議をした方がいいと言ったのはそういう意味。

タ (会長)よく「見直す=変える」というように言われてしまうが、このままでいい、十分使える、という答えもあり。見直すというよりも正確には検証することだと思う。全体を検証してみてこのままでいいというのであれば検証は終わりということになるし、この部分を充実させた方がいいという話になるのかをこれからこの部会でやるのか作業班で検証するのか、ということでしょうか。

チ 担い手・後継者の問題について、このマニュアルの中での「つながり」のところが本当にうまくできているのかというのを、もう少し深く掘り下げていく必要がある。タウンミーティングにしても、そういったものをしながら「私は関係ないわ」ではなく、とにかくこういう話し合いの場を設けるから来てくださいと。そういった中でつながりづくりをしていくことによって後継者ができるのかなど。1つ最近の事例で活かしていきたいと思ったのが、当コミュニティでは夏休みに宿題広場を3日間行い参加者が1日100人を超えた。ところが学校からは、夏休みは何のためにあるのか、子どもたちを学校に通わせてかつ帰りに熱中症になったら困るという話で反対の意見があった。ではそのリスクはカバーすると話をしたときに、去年のPTAの役員の方々が「手伝いましょうか」「帰りの送り迎えくらいならできます」という形で、1年前からずっとつながってきた中でそれだけの状況を把握していただいて、大変であれば手伝いましょうというお声がけがあった。やはりつながりというのは、ここで書かれているように既存の組織だけでなく、それ以外の個人的なところのつながりをどう作っていくかということ、もう少しマニュアルでやるのであれば深く掘り下げるのも1つの方法である。ただ、先ほどから出ている後継者をどう育成するかということに関してもまた別の大きなテーマであるからそれをやるのもいいが、今回のマニュアルという観点で言えば「つながり」のところをもう少し掘り下げていくとどうかというのが意見。

ツ まちづくり協議会に携わるようになって10年近くになるが、まちづくり協議会とは自治会が中心になってやっているという意識があった。私が1番意識しているのは、協働の指針3ページの協働のテーブルというところ。要は、協働のテーブルについている自治会も1団体であって、そこにいろんな地域団体・市民活動団体・PTAがいたり、みんなで作っていくところを意識して活動している。例えば、子どもの問題であれば子どもにまつわる保育園の関係の方・育成会の方・PTAの方という、テーマごとに各種団体の方に来ていただくという円卓会議というのをうちでは持っている。ここ2~3年はコロナもあって中断しているけれど、それをすることによって色々な団体の方が顔をつなげる関係があって、結果的にうちの今年度の副会長3名は防災で活動している方・福祉関係で活動している方・自治会で会長されている方ということで、40代の方に担っていただけることになった。やはりこの協働のテーブルということをもう少し浮き彫りにして、ま

ち協はいろんな幅広い団体がいてみんなで作っているということをもう少しくローズアップされたマニュアルにしたい。そうすれば、もっとみんなが当事者意識を持てるのではないかという気がする。

- テ (会長) 今話を聞いたり若い方々と一緒に活動したりすると、組織を前提に物事を考えているのか、いわゆる緩やかなつながりで動こうとしているのかによって、同じ文章を読んだり同じ話を聞いても理解が違うと思っている。そのあたりをもう少し丁寧に話をした方がいいのかなというのを私もおっしゃる通りだと思っている。ちなみに、今情報化をどんどん進めていこうという話になっているが、企業でも市役所でも、いわゆるDX、デジタルトランスフォーメーションという言い方をするが、本当にトランスフォーメーションまでいけるかと私はいつも言う。単に今までのやり方をそのまま踏襲して、それをインターネットに載せたり電子情報化をしていくということであればトランスフォーメーションになっていない。おそらく道具が変わると動き方とか組織も変わっていくはずで、そのきっかけとして情報化を促進するというこの意味はすごくあるだろうと思う。具体的に1つ言うならば、20年ほど前の話だが、八尾市で市役所内の情報交換が起こったときに、当時の市長さんが「どんな人でも職員でも、市長に言いたいことがあれば市長宛のメールをください」という話になった。そこである部署の若手職員が「1度市長にもうちの部署まで来て様子を見てください」という話になった。さっそく次の日の朝に、市長がその部署に行って「この前メールくれたよね、見に来ました」という話になった。そこで戦々恐々としたのが課長で、「なんでわざわざ市長が来るのか」という話になった。何を皆さんにお伝えしたいかということ、そういう中間管理職の役割というのがなくなってしまう。直接トップと末端の職員さんが情報交換できるようになっていく。そうすると、その組織の在り方そのものが変わってくる。そこをフルに利用しているのが、多分、今の若い方々。だから、組織に入らずとも自分が色々なもの、まさしくマニュアルや指針に書かれているように、自分が発意して情報発信すればいわゆるSNSなんかでつながりが生まれる。そのつながりで動いていくということなので、組織ありきではない動き方をされている。一方で、組織でその方を引き抜こうとすれば足首をつかまれると嫌だという話になってくるので、もっとフットワーク軽く動きたいというような、その動き方・考え方の違いというのが今起こっていることなのだろうと思う。そういう意味で、単に情報化の問題ではなくて、やはり使っている道具が違うと動き方とか仲間の作り方が違うというところは、(指針が)できて10年近くにもなるし時代もそれだけ進んできたし、特に若い方の動き方が変わってきているということも含めて、情報提供とか説明の仕方を補強するということもありかなと思った。
- ト 先ほどの事例から考えたときに、1つは組織的に動かざるを得ないという状況がある。一方で組織に入ることによって、時間の制約とか色々なことをしなくてはならないということで敬遠する。でも、自分の時間があるときは手伝う、なんでも言って、と、それはさっきから言われているようにネットとかLINEでもってやり

とりしている。そのLINEでのつながりというのが、今回の応援にもつながった。そうすると、例えばまち協の会長をしていて思うことは、一方で組織をきちっと運営していかななくてはならない。一方でつながりも作っていかななくてはならない。ここで、組織には入らないが手伝うという人が増えていったときに、どうコントロールしていくかということが今後の課題になるかと思う。会社など色々な組織の中では、当然マニュアル通りにしていかななくてはならない。でも一方で、まちづくり協議会のやっていることに対してすごく賛成するからそれに対してのサポートはします、けどマニュアルは関係ない、という考え方もあると思う。そこをどううまく調整していくか。だからキーマンはいないといけない。あるいは、キーとなる組織は必要だという感じがする。一方で、このマニュアルというのは、ある面で組織的な中で役に立っていると思うが、新しい動き方をしている人たちへどうマニュアルを広げていくか。逆にそちら用のマニュアルが必要なのかなという風にも考えていかななくてはならない。

ナ (会長) 先ほどのお言葉の中にコントロールというのがあって、私の話の中で中間管理職というのがあって、おそらくネットワーク型というのはこういう管理というのが非常に難しい状況になってくるだろうと思う。そのときに、みんなが周りのことを考えて、自分でやるべきこと・やってはいけないことをちゃんと適切に判断できるという能力がないと、おそらく勝手バラバラになってしまうだろうと思う。そのときに円卓会議のような情報交換をする場所さえあれば、勝手に動くのではなくて、まずはそこで「私たちはこういうことを考えていて、こういう動き方をしようと思っている」というような形の情報共有ができれば、「それならこちらに迷惑がかかるじゃないか」とか「こういうことも考えて」みたいなブレーキがかけられていくと思う。上から管理をするのではなくて、時間はかかるけれども、情報交換し、いろんな声を聞きながらみんなが自分で判断して動いていくような、そういう仕掛けというのがネットワーク型の動きでは重要。組織型はきちっとどうして動かしたらいいかというのがわかっていると思うが、今後増えていくであろうネットワーク型が勝手バラバラにならないようにするための、いわゆる新しいタイプのマネジメントというのはどうしたらいいのだろうか。私は最低限、情報交換をしっかりとするということが肝要かと思っている。そういうところを解説するというのも必要かと思っている。

ニ 対話型としては、先ほどの色々な立場の方が一堂に会する円卓会議というのを私どものまち協では開催してきたが、それと同時に今度、「武庫川右岸広場たからづか」というみんなの広場事業を、昨年第1回を有志が武庫川右岸広場実行委員会を作って、それをまちづくり協議会が主催ではなくて後援するという形で開催した。まちづくり協議会が主催をすると「まち協さんがやっている」と(いうことになる)。そうではなくて、主役はその広場に集まってきている色々な各種団体の方、例えばダリアのことをやっている方、子どものこと・子育てのことをやっている方、無農薬野菜を販売されている方とか、色々な団体の方がその広場に集まって

広場を盛り上げていきましょう、それをまちづくり協議会は後援する。その後援するということはある意味マネジメント。やはり、それは後援しないと危機管理とかそういうところ（の問題がある）。ソフト面はいろんな団体から色々アイデアは出るけれども、1番大変な会計の部分とか危機管理の部分とか、やはりそういうところはまちづくり協議会の事務局というのか、今まで積み上げてきたノウハウというのを後援することによってバックアップする。でも、ソフトを担ってくれるのは色々な多くの団体の方という形で、今年度も実は2回目を計画中。うまく言えないが、管理とソフトということは今までのように全てまち協が主催でということではなくて、まち協も名前を連ねる。そしてマネジメント責任というか、そういう部分では力を入れる。そういうことで協働のテーブルから事業が生まれ、1つの事業をみんなでするということでもまたつながり、そこからまた新しい担い手が生まれるのではないかと思う。

ヌ （会長）具体的に色々な人たちがつながって活動を担っていく、そういう仕掛けづくりをどうしたらいいのだろうかという具体例だったと思うが、発意からつながりをどのように作っていけばより色々な人たちがつながっていけるのだろうか。このあたりをもう少し解説した方がいいのではないかということだと思う。他はいかがか。

ネ 担い手の話に絞っていく、要するにつなぎづくりというのは色々な形があるのではないかということの中で今話をしているけれども、そういう形で進めていくのはどうなのか。委員会の全体会でやるのも1つだと思うが、今回のマニュアルの中でやるということに関してどうなのか。そこを確認しないと（いけない）。

ノ 私は全体でやってもこの場でやっても特に異議はないが、担い手の話がどこかで話し合われる機会を作りたいと思う。

ハ 毎月1回やっているまち協の連絡会がある。今おっしゃっているのは当事者の中から出てきた意見だと思う。そのまち協の連絡会では、担い手がないと思われている20のまち協の方々が当事者なので、結局は（その方たちが）色々ヒントをもらって（動く）ということになると思うが、そのあたりと、ここだけで決めてしまうというのではおかしくなりそうな気がするがいかがか。

ヒ もちろんここだけでという意味ではない。

フ （会長）我々は今までも何かを決めるというよりも、応援をするための道具とか仕掛けを作ってきたので、今回も担い手がないのではなくて、おそらくつながっていけないということだと思うので、そういう意味ではつながりをどのように作っていくのか・広げていくのかということが見えてくれば、おそらく次世代への担い手へつなげていくというのは案外いけるのではないかと思う。

ヘ 事例やヒントをこの（マニュアルの）中に入れていくということか。10年くらい前に買った協働の本を今読んでいるが、全く（10年前という感じがせず）新鮮。ということは、協働はなかなか進まないのだと思った。本当に着実に、進み方が遅いものだと思っていて、もしかしたら（マニュアルを）全部書き換えるというイメ

ージではないのだろう。加筆していったり、新しい事例を盛り込んでいくようなイメージかと思う。

ホ (会長) 先ほどの円卓会議を私たちはラウンドテーブルと呼んでおり、いわゆる地域の方々が集まって意見交換できる場所（最近プラットフォームと呼ばれている）を作ろうということで20数年間頑張ってきたが、ちょうど20数年前にプラットフォームという言葉を出したとき「なんやそれは」と言われた。どうしてプラットフォームと呼ぼうとしたかという、ある研究会の中で情報の専門家の先生と意見交換する機会があって、その先生がおっしゃっていることと我々がやろうとしていることがほとんど一緒だということに気が付いた。つまり、私たちがただただ市民活動とか地域活動の動かし方を考えているのは、まさしく情報社会が求めているものなのだと改めて再認識した。そこで、情報の分野では当たり前のように使っているプラットフォームという言い方、様々な情報が集まってくる、そういうものを地域で展開するというやり方がこれからは求められているだろうという確信を得てそこからどんどん広げていっている。そういう意味で、20数年前に一部の人が気付いて書いていたものが、ようやく改めて読んでみると「そういうことだったのか」ということが理解できるまで社会が成熟してきた、情報化が進んできたということでもあるのかなと思っている。そういう意味で、3年ごとに検証してみて、時代に合っていない部分・書き足しておかないといけない部分を見つけていってバージョンアップしていくということが必要なのかなと思う。そういうことで、色んなことを含めて検証作業をしてみるということではいかがか。ベースは今のマニュアルだけでも、そこに修正を加えたり書き足していきながら、よりわかりやすい時代に合ったものにバージョンアップしていくという作業をこれから繰り返していくということではよろしいか。

マ (会長) このメンバーが第5期になって、第4期までに作業した成果品がいくつかあるけれども、マニュアルを含めて委員になった機会に初めて読みましたという声も何度か聞いている。逆に考えてみると、なぜ読まれていなかったのかということも含めて、バージョンアップの時により多くの人たちに手に取ってもらう・読んでもらえるような仕掛けというのも必要なかなと思っているので、活用状況の調査というのがそのあたりで生きてくるのかなと思っている。あと何か進め方で（意見は）あるか。

ミ (会長) 協働契約のガイドラインづくりは、作業班を作っているけれども、同じように、先ほど（マニュアルを）作ったときも作業班があったというお話をいただいて、見直す・検証するときも作業班があった方が効率的じゃないかという意見を賜ったがいかがか。

ム (事務局) 促進委員会としては、協働契約が今、作業班の議論が大分進んできて、大きな修正作業が佳境を迎えるかというところと認識している。協働契約もかなりボリュームが大きいので、作業班2本立てで並行に進めるのは難しいと考える。促進委員会全体としては、全体会の話になってくると思うが、協働契約というところ

ろを1つまずゴールへもって行って、マニュアル部会の作業班を作るのはその次、
というようなこともご配慮いただけると非常にありがたい。

- メ (会長) 次回は全体会があるけれども、私が逆に気になっているのが、協働契約の方のガイドラインがほとんど整うと今度は協働契約の方の部会がすることが一段落する。今度また別の部会を作るのか、あるいはどうするのかという議論も出てくるのかなと思っている。どのようにこのメンバーが関わっていけばいいのかというところは、全体会の話になるかもしれないが考えておいた方がいいと思う。今、中々うまく2つに分かれておらず部会メンバーもかなり重複されているし、今後作業班を立ち上げてくると作業班のメンバーも重なってくるかもしれないというところが、たぶん事務局の心配のところにも出てくると思う。上手くメンバー的には分かれてしまえば(負担が)集中することはないと思うが、分け方というところにも課題が残っているかと思うがいかがか。先ほどの提案は、少し作業の方は協働契約の方に力を注いで、それが一段落した後でこのマニュアルの検証というのをやった方が事務局としては安心できるという意見だったが、いかがか。その方向でよろしいか。
- モ 事務局の話は理解できるので、その方向でいいのではないかと思う。このマニュアルの見直しも、こういう課題があるから見直さないといけないというスタートではない。3年で見直すと決めたから何かしないといけない、(課題が)あるかないかからやろうかということ。実際去年1年(検証を)パスしている。コロナもあった。そういう意味ではまだ、それよりも1つ片づけてからもう1度どういう形で見直し作業班を作るのか、作らないで別枠の問題点・全体的な問題点を洗い出すのか、その先またそういうテーマがあるということを考えながら進めたらいいのではないかと思うがいかがか。
- ヤ 実際自分も関わっているけれども、両方やっていくのはなかなかしんどい。1つここで前回の協働契約に関して、評価の問題がマニュアルの中で定義するのか契約の方で定義するのかというところがあったと思う。もしそこをマニュアルで定義するならば、そこだけは見ていかないといけない。それはマニュアルとは関係なく、協働契約のガイドラインのところでは評価を記すならばそれでいいかと思うが、そののところをどうするのかというのは決めていかないといけないと思う。
- ユ (会長) ちょうど次回9月ということで年度の後半戦に入っていくわけだが、事務局の方でも検討いただけると思うが、まずは協働契約のガイドラインを先行しようということであれば、従来のようにマニュアル部会と協働契約部会を交互にやるのではなく、部会自体も集中的に協働契約をやって全体会にかけて一旦終息させて、今度はマニュアル部会を集中的にやるというような、均等に分けない方がいいのかもしれない。そのあたりは作業班の方とも意見交換していただいて、月1でやっているこの会合をどういう割り振りでいけば1番効果的に進めていけるのかということも、また次回の全体会で示していただいて検討した方がいいかと思う。なぜそれを言っているかということ、協働のマニュアル検討部会がしばらく作業

班を置いておいて進めていくということになれば、内容的に間延びしてしまう危険性があるので、そのあたりの部会と全体会の組み合わせ方みたいなものを次回またご提案いただければと思う。結論的には、作業班で作業するというのは協働契約の方が落ち着くまで一旦休止をするということによろしいか。

ヨ （意見なし）

ラ （会長） 今日部会として決めておかないといけない内容は大体見えてきたと思うが、何か付け加えはあるか。こういうところをもう少し検討してとか、こういう話も充実しておいてほしいというような要望などもあればお聞かせいただきたい。

リ （意見なし）

ル （会長） 今日の部会の整理をさせていただくけれども、マニュアルの検証をしながら付加すべきこと修正すべきことをより充実させていくということで、それは作業班を立ち上げさせていただいて、作業班と部会で繰り返して進めていくというやり方。ただし、協働の契約のガイドラインが佳境に入っているので、協働のマニュアルの検証はそれが一段落するまでは少し置いておくということではいかがかという結論だったと思う。ということでそれで進めさせていただいて、また全体会のごときにどういうステップで月1の会議を割り振っていくのかということとはご提案いただければと思う。

3 その他

(1) 委員より、社会福祉協議会が主催する「人材に関する意見交換会」について情報提供があった。

ア 人材に関することについて、社会福祉協議会の方でも人材養成講座というのは各部署で色々やってはきているが、なかなか地域活動につながっていないという課題があるのは認識している。「人材に関する意見交換会」というのをやってみようかと思っていて、今チラシができたところなので地域の皆様にはこれから配布させていただきたいと思っている。担い手がいないのではなくうまくつながっていないところに私たちも課題を感じているので、マッチング大会というのをやってみようかと思っている。

イ （会長） これはオフレコの部分が多いが、数年前にとある自治体で若い方々も含めた「ぶっちゃけトーク」みたいな話をした。20代30代でもうすでに色々な形で地域で動いている方と、一方で地域活動の役員さんがトークをしようという話になったがトークではなくてバトルになった。どんなことになったかという、30代で地域の子どもたちを集めてサッカー教室をやってくださっている人がいて、この活動を地域活動と連携させながらやっていけたらいいと提案した。するとある自治会の会長さんが「あなたのところにはお父さんがいる、お父さんを通して（話を）持ってこい」という話になった。つまり、自治会活動というのは個人で参加するものではない、さらに好きなことだけやってもらっては困ると。私たちはやってほしいことがたくさんある、それをまずやってもらってからあなたがやりた

いサッカー教室を連携しなさいという話になってしまった。そこで若い人たちは「もういいわ」という感じになってしまったということがあるので、先ほどおっしゃっていただいた意見交換会も色んな方々が集まっていただいて、本音をぶつけ合うような話でお互いに気付きがあるようなことになったらいいだろうと期待しているところ。今若い方々ってどんな意見があってどう動いてらっしゃるのか、逆に、まち協とか自治会をどう見てらっしゃるのかみたいなことが聞ければ、とても充実した意見交換会になると思う。そういうところで参加者の呼びかけとか、色々工夫していただくと嬉しいと思う。

4 閉会

以 上